

第106回 石原裕次郎と三島敏夫を 結ぶハワイアン愛

石原裕次郎健在なりし頃、昭和の芸能ニユースやワイドショーでは、年が明けると、ハワイでくつろぐ裕ちゃんの姿が必ず映し出されたものでした。

裕ちゃんの歌で、私の一番のお気に入りには『夜霧よ今夜も有難う』ですが、中学生の頃にラジオから流れていた『俺はお前に弱いんだ』で、「古傷と男のダンディズム」を学びつつ、それをつぶやくように歌う裕ちゃんの歌い方に興味をそそられたものでした。

昭和39年5月に発売された『俺はお前に』を作曲したのは、戦後の日本にハワイアン人気を定着させた功労者・バッキー白片、作詞はバッキー率いるアロハ・ハワイアンズのベーシスト・石巻宗一郎でした。つまり、歌謡曲風の歌詞と曲名でありながら、和製ハワイアンソウルの趣を内包した楽曲でした。

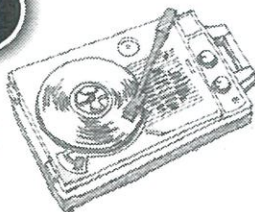
昭和31年7月に封切られた裕ちゃん最初の主演映画『狂った果実』（原作&脚本・石原慎太郎）では、ダンス

パーティーのシーンでウクレレを弾きながらハワイアン仕立てのオリジナル曲『想い出』（詞・清水みのる、曲・

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵 松本浦



寺部頼幸）を歌いますが、そこに集まる男連中は皆、ジャケットの下にアロハシャツを着込んでいました。裕ちゃんはデビュー当初からハワイとは縁が深かったようです。

裕ちゃんのオリジナル曲と思われる『俺はお前に』ですが、実はすでに昭和35年に発売されていて、当時アロハ・ハワイアンズに在籍していた三島敏夫の持ち歌でした。喉に力を入れずにやわらかく歌う裕ちゃんの歌唱法の背景にはハワイアン、ことに歌唱指導を受けたとされる三島敏夫の影響が多分にあったことでしょう。反対に、三島は裕ちゃんの持ち歌『夜霧よ』をカバーしますが、これは一聴に値します。

一方、昭和40年発売の『松の木小唄』で巷にその名が知られるようになった三島ですが、アロハ・ハワイアンズ以外にもマヒナスターズなどハワイアンのトップグループに在籍した実力派でした。最初に所属したのはココナッツ・アイランダーズというバンドで、そのリーダーが前述の『想い出』の作曲者。

寺部頼幸で、裕ちゃんより8歳年長の三島の軌跡をたどると、戦後日本のハワイアンのおおまかな歴史とムード歌謡への流れも見えてきます。

『松の木小唄』は、ハワイアン出身のマヒナスターズが大ヒットさせた『お座敷小唄』にあやかって発売された俗曲歌謡ですが、あいにく童謡出身の二宮ゆき子や朝丘雪路などの『まつゆき小唄』と競作となり、売れ行きでは二宮に遠く及ばなかったものの、飄々とした表情でかつたるそうに歌う「笑わない男」、三島敏夫の声と姿に私は惹かれていきました。

『松の木小唄』発売の2年前、三島はアロハ・ハワイアンズから独立、典型的なマイナー旋律のメロドラマ歌謡『面影』でデビューしたときのグループ名は「三島敏夫とそのグループ」というものでした（『その』は「園」ではありません。念のため）。「南国ハワイ」と無縁の名称からは、たとえ大好きなハワイアンであっても、仕事としてはハワイアンに縛られまいとする三島の意志が感じとれます。

